

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月15日

事業ID:2024005740

事業名:山口県山口市における「子ども第三の居場所」(B)コミュニティモデルの運営(最終年度)

団体名:社会福祉法人 青藍会

代表者名:阿武 義人 印

TEL:083-933-6000

事業完了日:2025年3月31日

■契約時

事業費総額	:	7,200,000 円
自己負担額	:	1,440,000 円
助成金額	:	5,760,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	7,385,464 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,625,464 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	5,760,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 山口県山口市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2024年4月1日~2025年3月31日(週5日、14時から19時まで開所)
(2)場所:山口県山口市
(3)対象:15名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。芋の植え付けと芋ほり体験、料理体験、夏休み工作、多世代交流体験、四季の行事等多様な体験活動を提供する。

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 山口県山口市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2024年4月1日~2025年3月31日(週5日、14時から19時まで開所)
(2)場所:山口県山口市
(3)対象:15名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心)。最終登録数は65名となった。
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完した。芋の植え付けと芋ほり体験、料理体験、夏休み工作、多世代交流体験、四季の行事等多様な体験活動を提供した。次年度からは、山口市より委託を受けて、放課後児童クラブとして運営を継続することとなった。

(3)成功したこととその要因

開所三年目を迎え、第三の居場所での支援の在り方を確立することができ、児童自身がやりたい遊びも多く取り入れることができた。年度終わりには登録者が65名となった。

(4)失敗したこととその要因

感染症が流行した際は、行動にまだまだ制限がかかり、活動の制限も余儀なくされた。併設施設や、小学校での感染症の流行による行動制限は続いていると感じる。

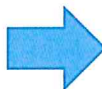
(5)事業内容詳細

イベントやレクリエーションにおいて、職員と児童が一緒に行い、目標や目的、また社会のルールも学びながら活動することができた。また、月に1度は併設施設の高齢者と一緒に学びの場を設けたり、いちご狩りなどの屋外活動を実施することができた。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

--

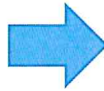
■事業内容4

(1)契約時の事業内容

--

(2)事業内容の実施(完了)状況

--



(3)成功したこととその要因

--

(4)失敗したこととその要因

--

(5)事業内容詳細

--

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

・2025年3月31日までに1日平均利用児童を15名とする ・ボランティアなどの地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供 ・子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントを事業期間内に12回実施する

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	153	文字数チェック	OK
・登録児童については、2025年3月時点で65名。平均児童数は15名程度。年間を通して、登録者の申請があった。 ・毎月、高齢者との学びの場だけでなく、定期的におやつ作りや工作、いちご狩りなどの屋外活動も実施することができた。 ・併設施設で感染症発生時も、感染拡大させることなく、運営を継続することができた。			

3.事業実施によって得られた成果

口コミで活動の情報が広まり、登録者を増やすことができた。 小学校内にある学童保育が利用できない児童を受け入れることができ、安心安全な場の提供に繋げることができた。 ボランティア等を受け入れることで、社会とのつながりも広げることができた。 校区外からの利用もあり、地域に根付くことができた。
--

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

校区外にも必要としている児童がいるのではないかと感じる。 情報発信も不十分であったため、児童委員や福祉委員とのつながりを持ち、必要とする児童を継続的に探していく必要がある。
--

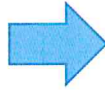
5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書



(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fields.canpan.info/nf>

上記で登録したURLをご記載ください。